

1. 職名・氏名 准教授・三浦孝太郎2. 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 名古屋大学、授与年月 平成20年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 生物学実験(2単位) 生物資源学部1年次 15コマ中4コマを担当した。
② 内容・ねらい(自由記述) 6名の教員による分担の実験実習であり、作物生産実習を担当した。作物生産を体験し、生産する上の工夫、生産現場の環境や問題点を伝えることを目的としている。本年度は、イネの生産・収穫を実施した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 性質の異なる6つのイネ品種を用意し、各学生が1品種を選択して生産することで品種・植え方の違いによる生産性の変化を体験できるようにした。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 分子生物学Ⅱ(2単位) 生物資源学部3年次
② 内容・ねらい(自由記述) バイオテクノロジー技術の基礎を学習する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) エッセンシャル細胞生物学の要点をなるべく分かりやすく解説し、演習を行うことで理解を深めようと工夫した。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 福井を学ぶ(2単位) 1・2・3年次
② 内容・ねらい(自由記述) 15名の教員によるオムニバス形式で実施し、福井の自然・社会・経済・文化に関する理解を深める。1コマ分「コシヒカリの育成とこれからの育種」を担当。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫(自由記述) 全学部の学生が対象であり、主に1年生が聴講しているため、できる限り専門用語を少なく分かりやすい講演に心がけた。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 卒業論文(8単位) 生物資源学科4年次
② 内容・ねらい 研究することとは、どのような活動かを体得する。原著論文を読み、問題点を明確にし、作業仮説に対して解答を得る試みを実際に行う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 丁寧な実験、再現性、結果の解釈、考察等が自ら行えるよう指導した。専門外の人にもわかりやすくプレゼンテーションすることを意識して指導した。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
専攻演習(2単位) 生物資源学科4年次

② 内容・ねらい

受講者は原著論文を2報精読し発表する。原著論文に引用されている文献や研究背景を理解した上で発表する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

原著論文(序論、実験手法、結果、考察)を、正確に読みこなすこと、また、わかりやすくプレゼンテーションをすることを心がけて指導した。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
植物分子生物学(2単位) 大学院修士課程

② 内容・ねらい

分子生物学、生化学、細胞生物学、遺伝学を用いて解明されつつある、高等植物におけるホルモンを介する情報伝達の仕組みを学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

実験技術の進歩が早いことと、証明の手段が刻々と変化している。この点を特に留意して、講義を行う。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
分子生物学専攻演習(4単位) 大学院修士課程

② 内容・ねらい

受講者が、自らの修士論文の研究テーマに関する領域のレビューを行うことを目的とする。最新の原著論文を、正確に、多数、早く読みこなすことを課している。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

関連分野の論文を総合してレビューができることを目的としている。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
分子生物学専攻特別演習(4単位) 大学院博士課程

② 内容・ねらい

博士論文の研究テーマに関する研究のレビューを行うことを目的とする。最新の原著論文を読み込み、自分の研究テーマの立ち位置を理解することを目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

関連分野の論文を総合してレビューした後、内容に関する質問に対し適切にディフェンスできる様指導している。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等
分子生物学専攻実験(8単位) 大学院修士課程

② 内容・ねらい

最新の科学技術を用いた論文を調べ、これらの技術を用いて各人が直面する未解明な問題に、一定の解決を見いだすことを目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

各自が必要とする実験手段、詳細に理解し、実験によって得られた結果を合理的に解釈できるようになることを目的としている。また、社会で必要となるプレゼンテーション技術を習得できるようわかりやすい内容にする事を指導している。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①論文

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日)

原著論文

1. 高橋正和, 勝麻衣, 角田優子, 金田啓太郎, 高田佳堯, 杉本雅俊, 久保義人, 佐藤有一, 佐塚隆志, 岩崎行玄, **三浦孝太郎**:「イネ科作物ソルガムのグルテンフリー米粉パンへの利用とソルガム搾汁液からの糖蜜調製の検討」, 福井県立大学論集, 第51号, 2019年第51号, 27-37, (2019)
2. Nishiyama A., Matsuta S., Chaya G., Itoh T., **Miura K.**, Iwasaki Y.
Identification of Heterotrimeric G Protein $\gamma 3$ Subunit in Rice Plasma Membrane.
Int. J. Mol. Sci. 19, 3591 (2018)
3. Matsuta S., Nishiyama A., Chaya G., Itoh T., **Miura K.**, Iwasaki Y.
Characterization of Heterotrimeric G Protein $\gamma 4$ Subunit in Rice.
Int. J. Mol. Sci. 19, 3596 (2018)
4. Takehara K., Murata K., Yamaguchi T., Yamaguchi K., Chaya G., Kido S., Iwasaki Y., Ogiwara H., Ebitani T., **Miura K.** *
Thermo-responsive allele of *sucrose synthase 3 (Sus3)* provides high-temperature tolerance during the ripening stage in rice (*Oryza sativa* L.)
Breed. Sci. 68, 336-342 (2018) *: Corresponding author
5. Segami S., Takehara K., Yamamoto T., Kido S., Kondo S., Iwasaki Y., **Miura K.** *
Overexpression of *SRS5* improves grain size of brassinosteroid-related dwarf mutants in rice (*Oryza sativa* L.)
Breed. Sci. 67, 393-397 (2017) *: Corresponding author

②著書

(タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名)

1. 若狭湾エネルギー研究センター研究年報 30 年度
福井県での栽培に最適化した酒米“新山田錦”の育成
平成 30 年度 第 21 巻 p. 42-44
2. 若狭湾エネルギー研究センター研究年報 29 年度
イオンビーム照射による山田錦のテーラーメイド育種ライブラリの開発と福井県に適した「新山田錦」の育成
平成 29 年度 第 20 巻 p. 113-116
3. 若狭湾エネルギー研究センター研究年報 28 年度

イオンビーム照射による山田錦のテーラーメイド育種ライブラリの開発と福井県に適した「新山田錦」の育成

平成 28 年度 第 19 巻 p. 55-56

4. 若狭湾エネルギー研究センター研究年報 27 年度

イオンビーム照射による山田錦のテーラーメイド育種ライブラリの開発と福井県に適した「新山田錦」の育成

平成 27 年度 第 18 巻 p. 52-53

③学会報告等

受賞

1. 日本育種学会論文賞 (2019 年)

Thermo-responsive allele of sucrose *Synthase 3* (*Sus3*) provides high-temperature tolerance during the ripening stage in rice (*Oryza sativa* L.)

竹原佳那、村田和優、山口琢也、山口航平、茶谷弦輝、木戸慎太郎、荻原均、蛭谷武志、岩崎行玄、三浦孝太郎

2. 日本育種学会優秀発表賞(2017 年)

竹原佳那、村田和優、山口琢也、蛭谷武志、荻原均、岩崎行玄、三浦孝太郎

イネ高温登熟耐性遺伝子 *Apq1* の遺伝解析

学会発表

1. 山口 航平、茶谷 弦輝、高城 啓一、岩崎 行玄、三浦 孝太郎

酒米山田錦口の福井県で口の安定生産を可能にする突然変異育種

日本育種学会第 137 回講演会 2020 年 3 月 28-29 日 東京大学

2. 茶谷 弦輝、山口 航平、岩崎 行玄、三浦 孝太郎

イネヘテロ 3 量体 G タンパク質による種子サイズと草丈の制御

日本育種学会第 137 回講演会 2020 年 3 月 28-29 日 東京大学

3. 三浦孝太郎、荻原芳徳、村田和優、山口琢也、山口航平、茶谷弦輝、岩崎行玄、蛭谷武志、荻原均

高温登熟耐性遺伝子 *Apq1* はシンク過剰の多収化遺伝子の整粒率を向上する

日本育種学会第 137 回講演会 2020 年 3 月 28-29 日 東京大学

4. 三浦孝太郎

福井県立大学におけるイオンビーム育種研究の展望-イネの品種改良-

(福井イオンビーム育種研究会 2019 年 12 月 13 日 若狭湾エネルギー研究センター)

5. 三浦孝太郎、山口航平、茶谷弦輝、高城啓一

山田錦の北陸地域での安定栽培を目指した突然変異育種

(北陸作物・育種学会第56回講演会 2019 年7月19-20日 AOSSA)

6. Aki Nishiyama, Sakura Matsuta, Genki Chaya, Takafumi Itoh, Kotaro Miura, Yukimoto

Iwasaki

Study of heterotrimeric G protein complex in rice

(The 17th International Symposium On Rice Functional Genomics Nov. 4–6, Taipei, Taiwan.)

7. Sakura Matsuta, Aki Nishiyama, Genki Chaya, Takafumi Itoh, **Kotaro Miura**, Yukimoto Iwasaki
Identification of heterotrimeric G protein subunits in rice
(The 17th International Symposium On Rice Functional Genomics Nov. 4–6, Taipei, Taiwan.)
8. 小林麻子、中岡史裕、両角悠作、町田芳恵、**三浦孝太郎**、富田桂
多収を目指した水稻育種におけるシンクサイズを増大させる遺伝子の利用
(日本育種学会第 135 回講演会 2019 年 3 月 16 日～17 日 千葉大学)
9. 中川 えみ、伊藤 貴文、**三浦 孝太郎**、日弁 隆雄、木元 久
Paenibacillus 属細菌由来アルギン酸リアーゼの反応機構と反応産物の植物に対する効果
(第12回北陸合同バイオシンポジウム 2019 2019 年 10 月 25～26 日 あわら温泉清風荘)
10. 和氣達朗, 中村(荒木)聡子, 篠原(大前)梢, **三浦孝太郎**, 春日重光, 佐塚隆志
ソルガム高バイオマス F1 品種「天高」の稈径とバイオマス関連形質に関する QTL 解析
(日本育種学会第 135 回講演会 2019 年 3 月 16 日～17 日 千葉大学)
11. 小林麻子, 中岡史裕, 両角悠作, 町田芳恵, **三浦孝太郎**, 富田桂
多収を目指した水稻育種におけるシンクサイズを増大させる遺伝子の利用
(日本育種学会第 135 回講演会 2019 年 3 月 16 日～17 日 千葉大学)
12. 西山明希, 松田さくら, 茶谷弦輝, 伊藤貴文, **三浦孝太郎**, 岩崎行玄
イネ GS3 遺伝子および DEP1 遺伝子がコードするタンパク質の同定
(日本育種学会第 135 回講演会 2019 年 3 月 16 日～17 日 千葉大学)
13. 丹羽 佑介, 中村(荒木)聡子, 南山 将輝, 篠原(大前)梢, 川口 秀夫, **三浦 孝太郎**, 春日 重光, 佐塚 隆志
スイートソルガムのバイオリファイナリー利用を目指した糖収量性関連形質の解析 (日本育種学会第 134 回講演会 2018 年 9 月 22 日～23 日 岡山大学)
14. **Miura, K.**, Takehara, K., Murata, K., Yamaguchi, T., Yamaguchi, K., Chaya, G., Kido, S., Iwasaki, Y., Ogiwara, H., Ebitani, T.
Thermo-responsive allele of *sucrose synthase 3* (*Sus3*) provides high-temperature

tolerance during the ripening stage in rice (*Oryza sativa* L.).

16th International Symposium on Rice Functional Genomics (東京農業大学 2018 年 9 月 5-7 日)

15. Yamaguchi, K., Iwasaki, Y., **Miura K.**

Loss of function of *GW2* improves lodging resistance of japonica rice variety.

16th International Symposium on Rice Functional Genomics (東京農業大学 2018 年 9 月 5-7 日)

16. Chaya, G., Iwasaki, Y., **Miura K.**

Suppression of the rice heterotrimeric G protein $\gamma 2$ -subunit gene, *RGG2* causes browning of internodes and lamina-joint

16th International Symposium on Rice Functional Genomics (東京農業大学 2018 年 9 月 5-7 日)

17. Matsuta, S., Nishiyama, A., Chaya, G., Itoh, T., Iwasaki, Y., **Miura K**

Biochemical analysis of heterotrimeric G protein $\gamma 4$ subunit in rice.

16th International Symposium on Rice Functional Genomics (東京農業大学 2018 年 9 月 5-7 日)

18. Nishiyama, A., Matsuta, S., Chaya, G., Itoh, T., Iwasaki, Y., **Miura K**

Biochemical study of heterotrimeric G protein $\gamma 3$ subunit, G $\gamma 3$ in rice.

16th International Symposium on Rice Functional Genomics (東京農業大学 2018 年 9 月 5-7 日)

19. 山口航平、竹原佳那、木戸慎太郎、高城啓一、岩崎行玄、**三浦孝太郎**

福井県に適した山田錦突然変異体の選抜と有用性評価

日本育種学会第133回講演会(九州大学 2018 年 3 月 25-26 日)

20. 竹原佳那、村田和優、山口琢也、山口航平、茶谷弦輝、木戸慎太郎、岩崎行玄、荻原均、蛭谷武志、**三浦孝太郎**

*Sucrose synthase 3 (Sus3)*の温度応答性アリルはイネに高温登熟耐性を付与する

日本育種学会第133回講演会(九州大学 2018 年 3 月 25-26 日)

21. 木戸慎太郎、山口航平、竹原佳那、岩崎行玄、**三浦孝太郎**

極大粒イネ系統を用いた種子長を制御する QTL の探索

日本育種学会第133回講演会(九州大学 2018 年 3 月 25-26 日)

22. 西山明希、松田さくら、茶谷弦輝、伊藤貴文、**三浦孝太郎**、岩崎行玄

イネ3量体 G タンパク質 $\gamma 3$ サブユニットの同定

日本育種学会第133回講演会(九州大学 2018 年 3 月 25-26 日)

23. 松田さくら、西山明希、茶谷弦輝、伊藤貴文、三浦孝太郎、岩崎行玄
イネ3量体 G タンパク質 $\gamma 4$ サブユニットの同定
日本育種学会第133回講演会(九州大学 2018年3月25-26日)
24. 茶谷弦輝、西山明希、松田さくら、伊藤貴文、三浦孝太郎、岩崎行玄
イネ3量体 G タンパク質 $\gamma 5$ サブユニット変異体の表現型の評価
日本育種学会第133回講演会(九州大学 2018年3月25-26日)
25. 三浦孝太郎、竹原佳那、村田和優、山口琢也、蛭谷武志、荻原均、岩崎行玄
イネ高温登熟耐性遺伝子 *Apq1* の遺伝解析
平成29年度日本水稻品質・食味研究会 第9回講演会(福井県国際交流会館 2018年11月11日(土)~12日(日))
26. 三浦孝太郎、瀬上修平、山本竜也、竹原佳那、木戸慎太郎、岩崎行玄
極大粒イネ系統を用いた種子サイズを制御する QTL の探索
日本育種学会第131回講演会(名古屋大学 2017年3月29-30日)
27. 山本竜也、竹原佳那、木戸慎太郎、村井耕二、岩崎行玄、三浦孝太郎
イネ *gw2* 変異体の育種利用
日本育種学会第131回講演会(名古屋大学 2017年3月29-30日)
28. 近藤沙紀、瀬上修平、山本竜也、竹原佳那、岩崎行玄、三浦孝太郎
イネヘテロ3量体 G タンパク質変異体の遺伝解析
日本育種学会第131回講演会(名古屋大学 2017年3月29-30日)
29. 岸 優花、坂井 優衣、松永 侑子、伊藤 貴文、日弁 隆雄、瀬上 修平、三浦 孝太郎、岩崎 行玄
イネ 3 量体 G タンパク質 α サブユニットと β サブユニットの存在比率の解析
日本育種学会第131回講演会(名古屋大学 2017年3月29-30日)
30. 竹原佳那、村田優和、山口琢也、蛭谷武志、荻原均、岩崎行玄、三浦孝太郎
イネ高温登熟耐性遺伝子 *Apq1* の遺伝解析
日本育種学会第131回講演会(名古屋大学 2017年3月29-30日)

④その他の公表実績

新聞掲載

1. 福井新聞 30年11月14日 見出し名「次世代の農業技術発表」
2. 北日本新聞 30年9月4日 見出し名「富富富 暑いほど高品質 県農業研など解明」
3. 福井新聞 30年8月25日 見出し名「暑さに強いコメ開発期待 遺伝子特定 県立大・三浦准教授 白未熟粒抑え食味良く」
4. 日刊県民福井 30年7月11日 見出し名「高温でもコメ品質向上の遺伝子 三浦准教授が特定」

5. 福井新聞 30年6月21日 見出し名「県立大開発の2品種使用 稲+小麦 勝山で二毛作」
6. 朝日新聞 29年4月3日 見出し名「大吟醸酒「稲越」発売 県立大開発のコメで醸造
7. 日本経済新聞 29年3月23日 見出し名「福井県立大のお酒」登場」
8. 日刊県民福井 29年3月23日 見出し名「県大米」から大吟醸完成」

イベントなど

北陸技術交流テクノフェア2019「ピカツンタについて」 令和元年10月24-25日 福井県産業会館

北陸技術交流テクノフェア2018「イネ科作物ソルガムの栽培特性と食用加工性」 30年10月25-26日 福井県産業会館

北陸技術交流テクノフェア 2017「福井県大発・大粒コシヒカリ稲品種の開発」 29年10月26-27日 福井県産業会館

ふくい味の祭典「福井ブランドアベサンショウウオの里米と県大大粒米」29年11月11～12日 福井県産業会館

FBC ラジオ ラジオキャンパス～ようこそ県大研究室～
テーマ「生物資源学部 新学科『創造農学科』(2)」 令和元年7月27日、28日放送

FBC ラジオ ラジオキャンパス～ようこそ県大研究室～
テーマ「大学院について」 令和元年6月22日、23日放

FBC ラジオ ラジオキャンパス～ようこそ県大研究室～
テーマ『農業おもしろ未来塾「稲作の将来について」』 平成30年2月24-25日

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動（担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日)）

学会での役職など（学会名）
日本育種学会 代議員(2018年～)

学会・分科会の開催運営（担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所）
日本遺伝学会第91回大会 大会委員(2019年9月11～13日、福井大学)

(3)研究会活動等

①その他の研究活動参加（参加研究会名、調査活動名(期間)）

②その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

1. 若狭湾エネルギー研究センター・公募型共同研究「福井県での栽培に最適化した酒米“新山田錦”の育成」(2018・8月～)
2. 若狭湾エネルギー研究センター・共同研究「主要穀物育種における重イオンビーム照射技術の利用」(2019・6月～)
3. 科研費補助金・挑戦的研究(萌芽)「溶けやすさ」を指標としたイネのデンプンの質を制御する遺伝資源の探索」(2017・4月～2019・3月)
4. 若狭湾エネルギー研究センター・公募型共同研究「イオンビーム照射による山田錦のテーラーメイド育種ライブラリの開発と福井県に適した「新山田錦」の育成」(2015・8月～2017・1月)
5. 農水省委託プロジェクト「温暖化の進行に適応する生産安定技術の開発」(2015・7月～2020・3月)

(5)特許出願

品種登録

稲種:ピカツタ(申請中)

稲種:ふくむすめ(申請準備中・2020年2月までに申請予定)

産地品種銘柄申請

稲種:ピカツタ(申請中)

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） 福井県農業試験場・組換え安全委員会・外部委員(2016年1月～) 福井県畜産試験場外部評価委員(2019年4月～) スマート農業実証事業の検討会議、アドバイザー委員(2019年10月29日)
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間） 農水省委託プロジェクト「温暖化の進行に適応する生産安定技術の開発」(2015・7月～2020・3月)
③(公益性の強い)NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④(兼業規程で業務と見なされる範囲内での)企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 (事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間)
⑥その他（名称、活動場所、活動期間）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） 1. 鯖江高校大学訪問(模擬講義)、福井県立大学、平成30年10月26日 2. 大門高校大学訪問(模擬講義)、福井県立大学、平成30年10月17日 3. イノベーション・リサーチ交流会『既存品種をマイナーチェンジ！突然変異によるオリジナル稲品種の開発』開催場所:福井県立大学地域経済研究所、開催日時:平成30年11月13日 4. 食品とからだの不思議をさぐる、開催場所:AOSSA 開催日時:平成30年7/14 5. 「農業おもしろ未来講座:コシヒカリ育成から60年、新たな課題と新技術を用いた新品種育成」、開催場所:AOSSA 開催日時:平成30年8/24日
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 1. ふくいプレカレッジ 福井県立大学 令和元年8月7-8日 2. 公開講座「グルテンフリー米粉パンの現状とイネの遺伝子による製パン性の違い」AOSSA、令和元年6月29日 3. 公開講座 中高生のための「農業おもしろ未来講座」お米の味を変える遺伝子 4. AOSSA、令和元年8月23日 5. 福井県立大学入試説明会(武生東高校)、令和元年7月26日 6. 福井県立大学入試説明会(北陸高校)、令和元年7月22日 7. 福井県立大学入試説明会(鯖江高校)、令和元年7月25日 8. 福井県立若狭高等学校学問探索講座、令和元年10月2日 9. 福井プレカレッジ事業(食を支えるバイオテクノロジー)(福井県立大29年8月11-12日) 10. 福井プレカレッジ事業(水質分析とDNA抽出・分析)(福井県立大28年7月24日)

③その他（名称、活動場所、活動期間）

1. 福井県立大学・研究施設公開 いもほり体験会
（生物資源開発研究センター 令和元年7月6日）
2. 福井県立大学・研究施設公開 いもほり体験会
（生物資源開発研究センター 平成30年10月6日）
3. 福井県立大学・研究施設公開 いもほり体験会
（生物資源開発研究センター 平成29年9月23日）

(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等)

(活動内容、主たる活動場所、活動期間)

6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
(職名、期間)
(2)委員会・チーム活動
(名称、期間) 利益相反委員会 創造農学科設置プロジェクトチーム 生物資源開発研究センター運営委員会 組換安全委員会 生物資源学部備品保守委員会 職場委員会(平成29年3月まで)
(3)学内行事への参加
(行事名、参加日時) 入学式 新年度ガイダンス 新入生オリエンテーション 学部新入生歓迎会 オープンキャンパス 学部懇親会 修士論文研究発表会 卒業研究発表会 修士中間発表会 卒業式
(4)その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間)